

け た 氣多の神とは？ いずも こし 出雲と高志をめぐるヒストリー（前編）

本校から10分ほど歩くと、氣多神社の大きな鳥居があり、75段もある急な石の階段があります。この75段の石段は、足腰を鍛えるには最高の場所だと思います。運動部のみなさん。ここでトレーニングすれば、かなり下半身が強くなりますね！そして、石段を登ると参道があり、そこは木々に囲まれた静かな神社の境内です。自然と心が落ち着き、いやされます。



氣多神社から伏木高校をのぞむ。絶景です！

◆氣多神社をめぐる歴史

伏木の氣多神社の歴史をめぐるのは、いくつかの説があります。その歴史の一端を紹介しましょう。

まず、延長5年（927年）の『延喜式』神名帳（平安時代に朝廷から官社に指定された神社一覧表）の古い写本（九条家本）が残っており、越中国（現在の富山県）にあった34の神社の中で伏木の氣多神社が名神大社として記されています。名神とは古くから靈力が強い神に与えられる、最上の神格です。



氣多神社拝殿（部分）

また、氣多神社は、越中国一宮（神社の格がその国のトップ）を称しています。一宮の社格のはじまりは、国司（現在の県知事）の参拝の順序にあるとされています。ただし時代の変遷にともない、神社の勢力も変化し、一宮を称する神社も増加しました。ですから、越中国一宮が意味するものは、ある時期に、越中国で最も勢力をもつ神社であった、と理解すればよいと思います。



越中総社跡（伝承地）

その時期の名残と考えられるのが、「越中総社」の跡地と考えられます。現在の氣多神社の拝殿への階段を登る手前、右手を見ると、木造の鳥居があり、少し高く土が盛りられている場所があります。かつてこの土壇に「越中総社」（越中国の有力な神を集めてまつた神殿）が建立されていた、との伝承があるのです。この場所は、富山県内屈指のパワースポットだと思います。ぜひ、パワーをもらいに、訪れてみてください。

◆氣多神社にまつられる神

さて、伏木の氣多神社にまつられる主祭神は、大己貴命と奴奈加波比売命、そして配神は事代主神、菊理姫命という神です。主祭神の大己貴命は、大国主命の別名で、島根県にある出雲大社にまつられている男神です。奴奈加波比売命は女神です。奴奈加波（沼河）とは、越後（現在の新潟県）の姫川（糸魚川市を流れる川）を指していると考えられます。

さて、ここで質問です。なぜ、伏木の氣多神社に、出雲と越後の神がまつられているのでしょうか？ 島根と新潟はかなり場所が離れています。不思議だと思いませんか。次号では、この謎について探究してみましよう！（次号後編へつづく）

（文責：高野靖彦）